

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和7年3月6日(木) NO26 文責 木下 文秋 きした ふみあき

憂う3月

ついに3月となり、次の年度の作業が始まりとても慌ただしくなりました。春は別れの時期でもあり、新しい出会いの時期でもあります。ただ、個人的にはどうしても気持ちがすっきりせず、憂鬱な気分になります。今の環境が変わること、慣れ親しんだ生徒がいなくなるの方が、新しい出会いがあることよりダメージを感じます。3年生の県立受検前に話をする機会があり、その中で『卒業までの時間を丁寧に大事に過ごしてほしい』とお願いしました。この時期に及んで、仲たがいをしたり、他人を誹謗中傷したりしては、卒業式が台無しになります。卒業式は3年生だけのものではありません。式に参列する2年生は、厳かな雰囲気卒業式の意義を感じるでしょうし「来年は自分たちの番だ」と決意を新たにせずです。そして、何と言っても保護者の方にとっては、苦勞して心配して育てた我が子の晴れ舞台です。素晴らしい卒業式を期待されているはず。どうか3年生は盤石の態勢で臨んでください。そして、1、2年生にお願いです。私はこの学校で「人をダメにするコトバ」を無くそうと3年間言い続けています。生徒会がサツキ言葉という素晴らしい知恵も出してくれました。しかし、皆さんの周りに争いごとや、人の悪口、根拠のない噂話をしている人はいませんか。もし、もめていたら、出来れば自分の力で解決して春を迎えてください。「ごめんなさい」で解決することもあります。もしそれが難しいなら先生に相談してください。人間は過ちを犯す動物ですが、反省して修復する能力もあるし、その失敗を学習する能力も持ち備えています。トラブルを抱えたまま進級はできません。また、クラスが離れ離れになれば解決することでもありません。ご家族の皆様にもお伝えしたいことがあります。私達の時代は、制限なく山や川で遊びまくっていて、その中で友だちとけんかもしたけど、いろんな経験を通して、人との接し方を学んでいました。当然、今ほど携帯電話もパソコンもありませんでしたが、不便さはなく、人とコミュニケーションを図る術が、自然と生活の中で身につけていました。学校でもひどく怒られていたし、これはダメなんだと思い知らされることが多々ありました。それに比べて、今は情報が溢れ、SNSや絵文字で会話ができる反面、公園には「迷惑となる遊びはしない」「大きな声は出さない」という看板があり、活動範囲は制限されています。コミュニケーションの機会が乏しい今の子どもたちには、人との接し方や世の中のタブーについて大人が教えてあげる時代だと感じます。若者が悪いのではなく、そういう社会になったのかもしれませんが。保護者の皆さんの職場や周りの若者も同じではないでしょうか。